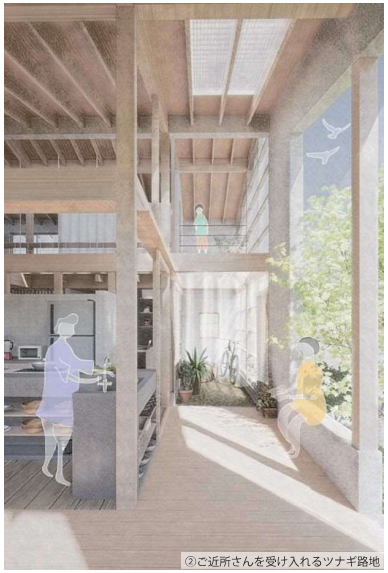
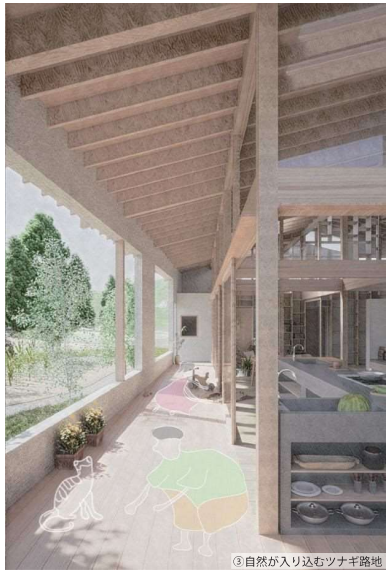
路地化する住まい

～2本の路地が家族・自然・人を繋げる～

①いつでも外と家族と繋がれる家族路地

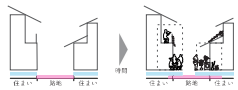


②ご近所さんを受け入れるツナギ路地



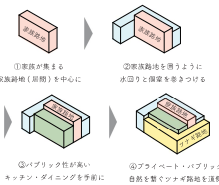
③自然が入り込むツナギ路地

1 Background 住人・環境により変化してきた路地空間



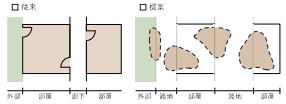
かつてから都市部や住宅地に存在する路地は、人々の営みと外部環境により生活やモノが住まいを飛び出し「路地空間化」してきた。路地空間は小さな住まい内で処理できない暮らしが道に溢れ細道を利用する人同士の関係性により長い時間をかけて形成され、季節や住人など様々な環境により変化し続けている柔らかい空間であるといえる。

2 concept 路地空間化する住宅



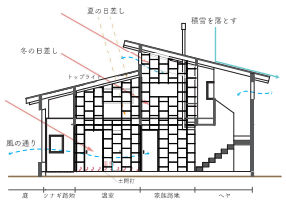
住宅では来客、季節、子供の成長、コロナウイルス … など様々な変化が日々起こるため、それを受容できる路地のような柔らかい空間が必要だと考えた。そこでプライベート性や機能をもつ部屋を路地空間へと飛び出させ、その時々や住人の気分に対応できる住宅空間をデザインする。本計画では、外部の環境、人が住宅内部と混ざり合う「ツナギ路地」と家族の営みや個人の活動を受容できる「家族路地」を設ける。

3 proposal 選択性・拡張性をもたらす建築的操作

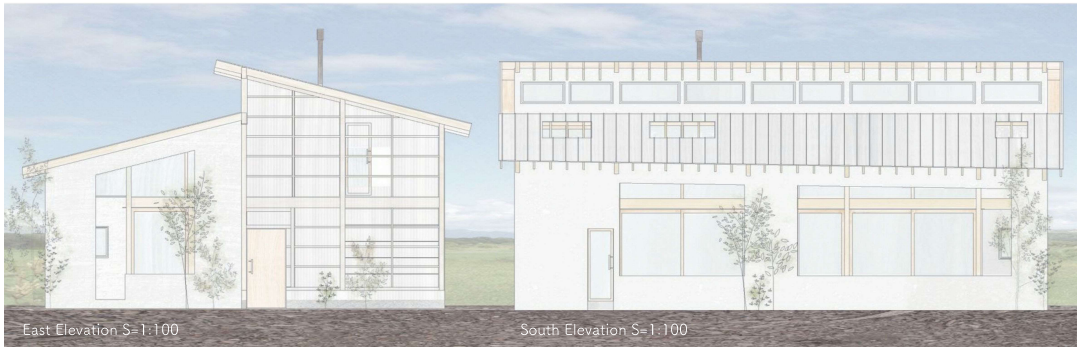


従来の住宅の動線（廊下）は部屋と部屋同士をつなぎ、部屋と動線をきっちり分けた構成のため部屋同士の繋がりが薄い。そこで、キッチンや個人の部屋などを挟めに設計し、部屋を壁や建具で仕切らず、カーテンや内部空間に露出する柱や梁で空間を緩やかに区切る。この操作により、動線（路地的空間）が広がり家族の関係や季節などの環境に応じて領域の変化をさせることができる。

4 environment 環境に応答するプラン



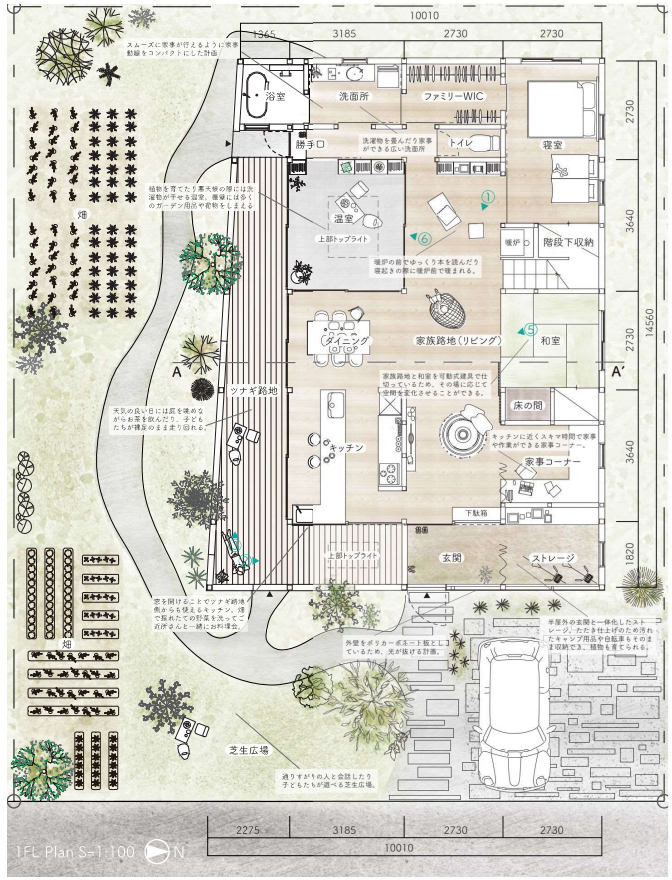
敷地は京都府長岡京市の住宅地に設定した。夏は暑く、冬は積雪があり湿度が高い過酷な環境をもつため、冬でも趣味の植物が育つ環境とどんな天候でも外を感じられることが必要だと感じた。そこで2つの路地空間の間に温室空間を計画する。夏は土間に打水を、冬は太陽熱により土間に蓄熱され快適な環境を保つ。加えてトップライトにより適切な光環境をもたらし、開口部によって適切な通風を確保した。

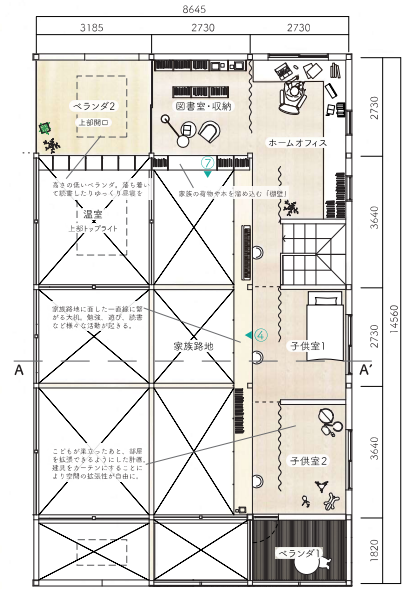


④空と庭が見える子供室

⑤天井が低く落ち着いた和室

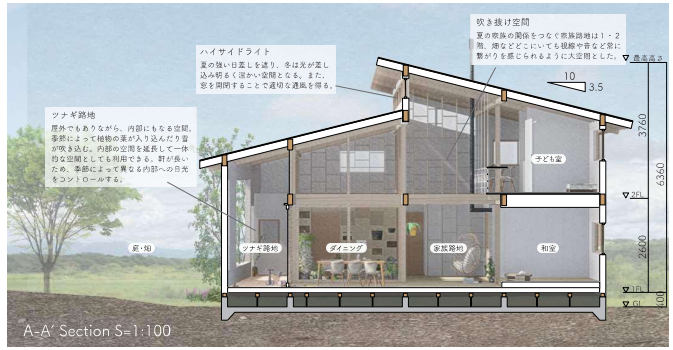
⑥天候と季節に左右されない温室





面積表

1F床面積	：112.3 ㎡	2F床面積	：50 ㎡	延床面積 ：162.3 ㎡



⑦朝日が差し込む家族路地